

ロス五輪のメダリストはここから――



水泳日本代表オフィシャルパートナー

パンパシ水泳2026

アメリカ・アーバイン

8月13日(木) 競泳 開幕

ABEMA & BS朝日で生中継

私たちは、水泳ニッポンを応援しています。

水泳日本代表オフィシャルパートナー



水泳日本代表オフィシャルスポンサー



競泳日本代表オフィシャルスポンサー

Ready Go!

8月、トビウオジャパンが世界列強と対決。

松下知之

Tomoyuki MATSUSHITA

村佐達也

Tatsuya MURASA

成田実生

MIO NARITA

鈴木聡美

Satomi SUZUKI

池江璃花子

Rikako IKEE

パ リ五輪を境に新旧交代が進む日本競泳陣。松下知之の銀メダル（400m個人メドレー）のみにとどまったパリ五輪から翌年の世界選手権に臨んだ日本代表は、松下の同種目銀メダルのほか、18歳の成田実生が400m個人メドレーで銀、村佐達也が200m自由形で銅メダルを獲り、2年後のロサンゼルス五輪に向けて復活の狼煙を上げた。

だからこそ重要なのが今シーズン。なぜなら、このパンパシフィック選

手権と欧州選手権が同時期に行われ、「記録」で競い、それが来シーズンへの試金石となるからである。

中 心となるのがエースの松下。3月の日本選手権では400m個人メドレーで自己ベストを更新も、レース展開には課題を残しただけにかけろ思いは強く、「4分6秒05の日本記録を塗り替える」と意気込んでいる。そして、カナダに世界女王、米国と豪州にも強者が居並ぶ成田にとっては試練の大会に。それでも、

「食欲にメダルを狙っていきたい」と高みを見すえる。春先から好調の村佐は、「日本新で金メダル」と意気揚々。安定感も抜群だけに、ビッグタイムにも期待しよう。

実績十分のベテラン勢も健在。衰えという言葉が自身の辞書にない35歳の鈴木聡美は「とにかく自己記録の更新。それがかなえば順位はついてくる」とジュニア選手のような純真さで真っ向勝負へ。そして精神的支柱として泳ぎと言葉でチームを鼓舞する池江璃花子も、相性のいいこの大会を心待ちにしている。

活躍必至のトビウオジャパン



松元克央
Katsuhiko MATSUMOTO



岡留大和
Yamato OKADOME



西川我咲
Asaki NISHIKAWA



光永翔音
Shoon MITSUNAGA



佐々木美莉
Miri SASAKI

国 際大会での経験と実績を兼ね備えた実力者がチームを支え、成長著しい若い力が着々と育ちつつある日本代表。米国の大学で力をつけた岡留大和は未知数の可能性を秘め、20歳にして国際経験豊富な西川我咲、さらには佐々木美莉、光永翔音ら若手が世界列強との戦いに腕をぶす。一方、ベテランも健在。世界選手権でメダル獲得経験のある松元克央、渡辺一平を筆頭に、中堅の実力者として谷口卓、竹原秀一、深沢大和、松本信歩、そしてリレーを含めた女子自由形短距離をけん引する池本風沙らが最高の泳ぎでチームを鼓舞する。



松本信歩
Shiho MATSUMOTO



深沢大和
Yamato FUKASAWA



竹原秀一
Hidekazu TAKEHARA



池本風沙
Nagisa IKEMOTO



渡辺一平
Ippei WATANABE



谷口 卓
Taku TANIGUCHI

Close-up
新戦力

世界規格の高校生



小島夢貴
Yumeki KOJIMA

大橋 信
Shin OHASHI

初のシニアの国際舞台。優勝して存在感示す！

ともに幼い頃から注目を集めてきた。中学3年時には大橋 信は100、200m平泳ぎで中学新記録を樹立、小島夢貴は全国中学校大会で200、400m個人メドレーを制した。昨年はシンガポール世界選手権のメンバーに名を連ねることはできなかったが、その後、ともに世界ジュニア新記録を樹立。世界ジュニア選手権で個人種目での優勝を逃す悔しさも味わったものの、ふたりの目は早くもその先へ向いていた。

大橋は、昨年5月の頃は「ちょっとコツをつかんだ感じ」と話していたプルとキックをつなぐ腰の使い方

を、徐々に自分のものとしていった。11月のジャパンオープン、今年3月の日本選手権では先輩の実力者たちを抑えて3冠を達成。100m平泳ぎでの日本新記録樹立をはじめ、200m平泳ぎでも世界記録に肉薄する泳ぎを披露するなど、あっという間に日本のトップへと躍り出た。

一方、日本男子で平泳ぎ同様にハイレベルな個人メドレーにおいて、シニアの代表にすぐに入るのは難しいのではないかと見られていた小島。だが、3月の日本選手権では大会前からの「個人メドレーで代表入りを狙います」という言葉どおり、

個人メドレー2種目で派遣標準Ⅱを突破し、松下知之（東洋大）に続く2位に入った。有言実行。見事に代表の座をつかんでみせた。

今年の世界ランキングで、大橋は100、200m平泳ぎ、小島は200、400m個人メドレーで上位に位置しており、まさに世界規格の高校生。今回のパンパシフィック選手権でも、大橋が「記録よりまず海外のトップ選手に勝ちたい」と勝利へのこだわりを見せれば、小島も「優勝を狙います」と臆する様子もない。恐れを知らない17歳ふたりが、シニアの国際舞台に真っ向から挑んでいく。

復権! 長距離二ツポン。

いまさに上昇機運! 古の記憶、ふたたび



その昔、古橋廣之進、橋爪四郎、山中毅がけん引した日本の自由形長距離は栄華を誇った。2004年アテネ五輪では女子800m自由形で柴田亜衣が金メダルを獲得。しかしその後、歩みははたと止まり、男女とも暗いトンネルをさまよいつづけた。一点の光が射したのは今年3月の日本選手権。梶本一花が800m自由形で22年ぶりの日本新、田淵海斗は1500m自由形で世界の上位が見えるハイレベルな日本新を樹立した。男子は大学1年生の今福和志と田淵が切磋琢磨しながら、女子はオープンウォータースイミングとの相乗効果で梶本と蝦名愛梨が世界の背中で必死に追う。

まずは競泳に先がけ行われるオープンウォータースイミングで表彰台を。そして米豪に強豪ひしめく競泳でも、メダル獲得を期待したい。

OWS	8月10日(月)
スケジュール	10:00~
ロングビーチ・マリンスタジアム	男子10km
	12:30~
	女子10km

競泳スケジュール

ウィリアム・ウーレット・ジュニア・アクアティクスセンター

以下の競技順で、予選は10:00から(日本時間は翌日の2:00)
決勝は19:00から(日本時間は翌日の11:00)

1日目/8月12日(水)	2日目/8月13日(木)	3日目/8月14日(金)	4日目/8月15日(土)
女子50mバタフライ	女子400m個人メドレー	女子400m自由形	女子200m個人メドレー
男子50mバタフライ	男子400m個人メドレー	男子400m自由形	男子200m個人メドレー
女子200m自由形	女子100m自由形	女子100mバタフライ	女子50m自由形
男子200m自由形	男子100m自由形	男子100mバタフライ	男子50m自由形
女子100m背泳ぎ	女子100m平泳ぎ	女子200m背泳ぎ	女子200m平泳ぎ
男子100m背泳ぎ	男子100m平泳ぎ	男子200m背泳ぎ	男子200m平泳ぎ
女子200mバタフライ	女子50m背泳ぎ	女子50m平泳ぎ	男子1500m自由形(FastHeat)
男子200mバタフライ	男子50m背泳ぎ	男子50m平泳ぎ	女子800m自由形(FastHeat)
男子800m自由形(FastHeat)	女子4×200mフリーリレー	女子4×100mフリーリレー	女子4×100mメドレーリレー
女子1500m自由形(FastHeat)	男子4×200mフリーリレー	男子4×100mフリーリレー	男子4×100mメドレーリレー
混合4×100mメドレーリレー			

*800、1500m自由形は一発決勝で、予選の時間帯にSlow Heatsを実施。リレー競技は決勝のみ

Look at the World! 19歳の絶対女王。

14歳で東京五輪に出場。400m自由形で4位と、メダルに届かなかった悔しさが闘争心に火をつけた。鍛錬を重ね、試合では己の限界に挑戦。翌2022年からは下表のような活躍ぶりで、非の打ちどころがないとはサマー・マッキントッシュのためにある言葉だ、には何の異論もない。

そんな19歳が7月、女子最古だった200mバタフライの世界記録を打ち破った。レース後、普段はクールな女王が「子供の頃から夢見ていた世界記録だったの。大歓声で記録が近いと感じたけれど、本当に達成できるなんて信じられない!」と喜んだ。

次なるターゲットは——。サマーの泳ぎに、世界中が注目する夏になる。

マッキントッシュ★データ trivia

●オリンピック・世界選手権の金メダル

2022年	ブダペスト世界選手権
200mバタフライ	2分05秒20
400m個人メドレー	4分32秒04
2023年	福岡世界選手権
200mバタフライ	2分04秒06
400m個人メドレー	4分27秒11
2024年	パリ五輪
200mバタフライ	2分03秒03
200m個人メドレー	2分06秒56
400m個人メドレー	4分27秒71
2025年	シンガポール世界選手権
400m自由形	3分56秒26
200mバタフライ	2分01秒99
200m個人メドレー	2分06秒69
400m個人メドレー	4分25秒78

●保持する世界記録(長水路)

400m自由形	3分54秒18	2025年
200mバタフライ	2分01秒65	2026年
200m個人メドレー	2分05秒70	2025年
400m個人メドレー	4分23秒65	2025年

7月に出したばかり!

*樹立大会は4種目とも「カナダ代表選考会」



Katie LEDECKY

ケイティ・レデッキー [米国]



Gretchen WALSH

グレチェン・ウォルシュ [米国]



Luke HOBSON

ルーク・ホブソン [米国]



Samuel SHORT

サミュエル・ショート [豪州]

2012年から女子自由形長距離のトップを張るレジェンド

スピード違反級のスプリンター。100mバタフライと50m自由形の世界記録保持者

積極的に仕掛ける200m自由形の職人。村佐達也最大のライバル

変幻自在にレースを操る長距離王国復活の旗手

日本代表 選手名鑑

Swimming 競泳 男子

松本周也 ひまわりネオワーク(株)
所属 まつもとしゅうや
エントリー種目 50、100m自由形、50mバタフライ
(生年月日 2000年5月10日(26歳) 身長・体重 175cm・65kg (出身地 静岡県 出身校 静岡県立伊東高、中京大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m自由形21秒64 (2025年静岡県選手権)、100m自由形46秒44 (2025年静岡県選手権)、50mバタフライ23秒89 (2026年KOSUKE KITAJIMA CUP)

坂井孝士郎 大和ハウス工業(株)水泳部
所属 さかいこうしろう
エントリー種目 50、100m自由形
(生年月日 1996年10月27日(29歳) 身長・体重 187cm・80kg (出身地 兵庫県 出身校 関西学院高、中央大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m自由形21秒92 (2026年3月日本選手権)、100m自由形49秒88 (2019年日本選手権)

松元克央 三菱養和スィムスクール
所属 まつもとかつひろ
エントリー種目 100、200m自由形、100mバタフライ
(生年月日 1997年2月28日(29歳) 身長・体重 187cm・91kg (出身地 福島県 出身校 千葉商科大付属高、明治大)
(自己ベスト(樹立大会名) 100m自由形47秒85 (2023年日本選手権)、200m自由形1分44秒65 (2021年日本選手権)、100mバタフライ50秒96 (2023年日本選手権、2024年国際大会代表選手選考会)

村佐達也 イトマン東京／中央大2年
所属 むらさきたつや
エントリー種目 50、100、200、400m自由形
(生年月日 2007年3月27日(19歳) 身長・体重 178cm・65kg (出身地 愛知県 出身校 中京大附属中京高)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m自由形22秒42 (2025年国民スポーツ大会)、100m自由形48秒43 (2025年国民スポーツ大会、2026年3月日本選手権)、200m自由形1分44秒54 (2025年世界選手権)、400m自由形3分45秒84 (2026年3月日本選手権)

今福和志 同志社大1年
所属 いまふくかずし
エントリー種目 400、800、1500m自由形
(生年月日 2007年5月21日(19歳) 身長・体重 183cm・75kg (出身地 大阪府 出身校 四條囃子園高)
(自己ベスト(樹立大会名) 400m自由形3分45秒84 (2026年3月日本選手権)、800m自由形7分47秒81 (2026年3月日本選手権)、1500m自由形14分50秒18 (2025年日本選手権)

田淵海斗 尼崎SWIMMING TEAM
所属 たぶちかいと
エントリー種目 1500m自由形
(生年月日 2002年7月1日(24歳) 身長・体重 171cm・69kg (出身地 神奈川県 出身校 日本大藤沢高、明治大)
(自己ベスト(樹立大会名) 1500m自由形14分45秒57 (2026年3月日本選手権)

黒田一瑛 コナミスポーツ／明治大1年
所属 くろだかずさ
エントリー種目 100、200m自由形
(生年月日 2007年6月21日(19歳) 身長・体重 180cm・74kg (出身地 北海道 出身校 札幌大谷高)
(自己ベスト(樹立大会名) 100m自由形48秒87 (2025年国民スポーツ大会)、200m自由形1分46秒77 (2025年国民スポーツ大会)

柳本幸之介 ミキハウス／TASC
所属 こうのゆけ
エントリー種目 100、200m自由形
(生年月日 2003年11月24日(22歳) 身長・体重 183cm・80kg (出身地 佐賀県 出身校 日本大豊山高)
(自己ベスト(樹立大会名) 100m自由形49秒04 (2025年日本学生選手権)、200m自由形1分46秒84 (2024年国際大会代表選手選考会)

三浦玲央 自衛隊体育学校／自衛隊SC
所属 みづられお
エントリー種目 50、100m背泳ぎ
(生年月日 2001年6月30日(25歳) 身長・体重 177cm・81kg (出身地 群馬県 出身校 群馬県立高崎高、筑波大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m背泳ぎ24秒96 (2026年6月日本選手権)、100m背泳ぎ54秒50 (2023年日本学生選手権)

竹原秀一 はるおかスイミングスクール赤間
所属 たけはらひでかず
エントリー種目 100、200m背泳ぎ
(生年月日 2004年4月27日(22歳) 身長・体重 172cm・64kg (出身地 福岡県 出身校 東福岡高)
(自己ベスト(樹立大会名) 100m背泳ぎ53秒63 (2026年3月日本選手権)、200m背泳ぎ1分55秒50 (2025年日本学生選手権)

西小野皓大 新東工業(株)豊川製作所
所属 にしのだい
エントリー種目 50、100、200m背泳ぎ
(生年月日 2003年4月7日(23歳) 身長・体重 176cm・71kg (出身地 鹿児島県 出身校 鹿児島情報高、中京大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m背泳ぎ25秒77 (2025年ジャパンオープン)、100m背泳ぎ54秒28 (2026年6月日本選手権)、200m背泳ぎ1分56秒04 (2025年世界選手権)

小島夢貴 コハンスポーツクラブ豊川
所属 こじまゆめき
エントリー種目 200m背泳ぎ、200、400m個人メドレー
(生年月日 2008年12月20日(17歳) 身長・体重 178cm・65kg (出身地 東京都 出身校 豊川高3年)
(自己ベスト(樹立大会名) 200m背泳ぎ1分55秒62 (2026年6月日本選手権)、200m個人メドレー1分56秒53 (2026年3月日本選手権)、400m個人メドレー4分8秒84 (2026年3月日本選手権)

大橋 信 四條囃子園高3年
所属 おおはししん
エントリー種目 50、100、200m平泳ぎ
(生年月日 2009年3月5日(17歳) 身長・体重 169cm・66kg (出身地 大阪府 出身校 大分県立佐伯鶴城高、早稲田大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m平泳ぎ26秒98 (2026年3月日本選手権)、100m平泳ぎ58秒67 (2026年3月日本選手権)、200m平泳ぎ2分6秒59 (2026年3月日本選手権)

渡辺一平 トヨタ自動車(株)
所属 わたなべいつぺい
エントリー種目 50、100、200m平泳ぎ
(生年月日 1997年3月18日(29歳) 身長・体重 193cm・89kg (出身地 大分県 出身校 大分県立佐伯鶴城高、早稲田大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m平泳ぎ27秒40 (2026年KOSUKE KITAJIMA CUP)、100m平泳ぎ59秒47 (2024年国際大会代表選手選考会)、200m平泳ぎ2分6秒67 (2017年東京都選手権)

深沢大和 東急(株)
所属 ふかさわやまと
エントリー種目 50、100、200m平泳ぎ
(生年月日 2000年10月16日(25歳) 身長・体重 184cm・83kg (出身地 東京都 出身校 慶應義塾高、慶應義塾大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m平泳ぎ27秒66 (2025年ジャパンオープン)、100m平泳ぎ59秒24 (2025年日本選手権)、200m平泳ぎ2分7秒07 (2024年コナミオープン)

谷口 卓 GSTR GRAND PRIX
所属 たにぐちたく
エントリー種目 50、100m平泳ぎ
(生年月日 2001年9月26日(24歳) 身長・体重 180cm・75kg (出身地 三重県 出身校 日本大豊山高、中京大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m平泳ぎ26秒65 (2025年世界選手権)、100m平泳ぎ59秒30 (2025年日本選手権)

岡留大和 インターナショナルスイミングクラブ
所属 おかどめやまと
エントリー種目 50、100m平泳ぎ
(生年月日 2005年7月3日(21歳) 身長・体重 188cm・89kg (出身地 千葉県 出身校 東邦大付属東邦高)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m平泳ぎ26秒76 (2026年6月日本選手権)、100m平泳ぎ59秒11 (2026年6月日本選手権)

光永翔音 中央大3年
所属 みつながしゅうおん
エントリー種目 50、100mバタフライ、50、100m自由形
(生年月日 2005年6月28日(21歳) 身長・体重 191cm・87kg (出身地 千葉県 出身校 日本大藤沢高、日本大)
(自己ベスト(樹立大会名) 50m自由形22秒59 (2026年日本中央大対抗戦)、100m自由形48秒79 (2026年3月日本選手権)、50mバタフライ23秒06 (2026年3月日本選手権)、100mバタフライ51秒08 (2026年3月日本選手権)

本多 灯 イトマン東進
所属 ほんだともる
エントリー種目 100、200mバタフライ、400m個人メドレー
(生年月日 2001年12月31日(24歳) 身長・体重 173cm・77kg (出身地 神奈川県 出身校 日本大藤沢高、日本大)
(自己ベスト(樹立大会名) 100mバタフライ51秒49 (2024年KOSUKE KITAJIMA CUP)、200mバタフライ1分52秒70 (2022年ジャパンオープン)、400m個人メドレー4分9秒98 (2023年ジャパンオープン)

History of PanPacs

パンパシフィック選手権の誕生と歩み

念すべき第1回大会は1985年に東京・代々木オリンピックプールで行われた。その前身となる「国際招待大会」が1981年と1983年(いずれも東京開催)に行われているが、これは通称「デサント水泳」として親しまれ、観客席がぎっしり埋まるほど多くのファンが詰めかけ大盛況だった。

1983年の大会時には、すでに環太平洋諸国から12カ国が参加していたが、2年後は同時期に開催される欧州選手権に対抗する大会に育てていくという理想のもとに行うとし、1985年、パンパシフィック選手

権が誕生した。大会方式の決定や運営は、チャーターネーションズである日本、米国、豪州、カナダの4カ国が行っている。

第1回大会(1985年)以後は2年ごとに開催されてきたが、それまで4年に1回、オリンピックの中間年に開催されていた世界選手権が奇数年の2年ごとの開催となったため、2000年以降は4年ごとの開催となり、2002年の第9回横浜大会から、オリンピックの中間年に開催されている。ただ、2022年の第14回大会は、コロナ禍の影響で国際大会の開催が不規則となったため中止。今大会が8年ぶりの開催となる。

1985年の第1回大会の主役は日本のエース、長崎宏子と世界王者マット・ピオンディ(米国/右)だった



前回大会(2018年)で世界のトップ戦線に名乗りを挙げる活躍を見せた池江璃花子(写真中央)

松下知之 スワイン宇都宮フレイミングスクール
所属 まつしたともゆき
エントリー種目 200、400m個人メドレー
(生年月日 2005年8月1日(21歳) 身長・体重 179cm・75kg (出身地 栃木県 出身校 栃木県立宇都宮南高)
(自己ベスト(樹立大会名) 200m個人メドレー1分55秒60 (2025年ジャパンオープン)、400m個人メドレー4分6秒93 (2026年3月日本選手権)

西川我咲 Kレボックス春日スイミングスクール
所属 にしかわあさき
エントリー種目 200、400m自由形
(生年月日 2006年7月15日(20歳) 身長・体重 171cm・65kg (出身地 愛知県 出身校 豊川高)
(自己ベスト(樹立大会名) 400m自由形3分46秒04 (2026年3月日本選手権)、200m個人メドレー1分57秒80 (2025年ジャパンオープン)、400m個人メドレー4分7秒67 (2025年ジャパンオープン)

Swimming
WOMEN
競泳
女子

梶本一花
所属 大林組水泳部／野尻湖游泳会
エントリー種目 400、800、1500m自由形
生年月日 2004年3月7日(22歳)
身長・体重 165cm・56kg (出身地 大阪府)
出身校 四條畷学園高、同志社大
自己ベスト(樹立大会名) 400m自由形4分6秒61 (2026年3月日本選手権)、800m自由形8分23秒11 (2026年3月日本選手権)、1500m自由形15分58秒59 (2026年3月日本選手権)

難波実夢
所属 JSS東京
エントリー種目 100、200、400m自由形
生年月日 2002年5月31日(24歳)
身長・体重 168cm・62kg (出身地 奈良県)
出身校 天理高、近畿大
自己ベスト(樹立大会名) 100m自由形55秒68 (2022年日本学生選手権)、200m自由形1分58秒24 (2022年国際大会代表選手選考会)、400m自由形4分5秒25 (2022年国際大会代表選手選考会)

池江璃花子
所属 スポーツクラブルネサンス 横浜ゴム株
エントリー種目 50、100mバタフライ、50m自由形
生年月日 2000年7月4日(26歳)
身長・体重 172cm・58kg (出身地 東京都)
出身校 淑徳巣鴨高、日本大
自己ベスト(樹立大会名) 50m自由形24秒21 (2018年日本選手権)、50mバタフライ25秒11 (2018年ヨーロッパグランプリ)、100mバタフライ56秒08 (2018年パンパシフィック選手権)

溝口歩優
所属 セントラルスポーツ藤沢 筑波大3年
エントリー種目 50、100m自由形、50mバタフライ
生年月日 2005年7月20日(21歳)
身長・体重 161cm・62kg (出身地 神奈川県)
出身校 日本大藤沢高
自己ベスト(樹立大会名) 50m自由形25秒25 (2026年6月日本選手権)、100m自由形55秒12 (2026年茨城県選手権)、50mバタフライ26秒86 (2026年6月日本選手権)

佐々木美莉
所属 東洋大3年 埼玉スウィミングスクール
エントリー種目 50、100m背泳ぎ
生年月日 2005年5月17日(21歳)
身長・体重 171cm・58kg (出身地 埼玉県)
出身校 春日部共栄高
自己ベスト(樹立大会名) 50m背泳ぎ27秒91 (2025年ジャパンオープン)、100m背泳ぎ1分0秒25 (2026年6月日本選手権)

池本風沙
所属 ミキハウス／TASC
エントリー種目 100、200m自由形
生年月日 2002年8月25日(23歳)
身長・体重 171cm・62kg (出身地 京都府)
出身校 近畿大附属高、中央大
自己ベスト(樹立大会名) 100m自由形53秒92 (2023年関東学生選手権)、200m自由形1分57秒77 (2020年きららカップ)

鈴木莉緒
所属 青山学院大3年 アリーナつきみ野スポーツクラブ
エントリー種目 100、200m自由形、200m個人メドレー
生年月日 2005年9月14日(20歳)
身長・体重 161cm・55kg (出身地 東京都)
出身校 八王子高
自己ベスト(樹立大会名) 100m自由形55秒01 (2025年日本学生選手権)、200m自由形1分59秒13 (2026年6月日本選手権)、200m個人メドレー2分11秒70 (2025年日本学生選手権)

白井璃緒
所属 ミスノ
エントリー種目 100、200m背泳ぎ
生年月日 1999年9月10日(26歳)
身長・体重 166cm・63kg (出身地 兵庫県)
出身校 兵庫県立宝塚東高、東洋大
自己ベスト(樹立大会名) 100m背泳ぎ59秒43 (2019年日本学生選手権)、200m背泳ぎ2分7秒87 (2019年日本学生選手権)

竹澤瑠珂
所属 早稲田大2年 東京スイミングセンター
エントリー種目 200、400、800m自由形
生年月日 2006年5月8日(20歳)
身長・体重 161cm・55kg (出身地 東京都)
出身校 武蔵野高
自己ベスト(樹立大会名) 200m自由形1分58秒33 (2026年3月日本選手権)、400m自由形4分9秒13 (2026年3月日本選手権)、800m自由形8分30秒57 (2026年3月日本選手権)

福岡由唯
所属 中央大1年 イトマンスイミングスクール多摩校
エントリー種目 100、200、400m自由形
生年月日 2007年9月15日(18歳)
身長・体重 167cm・55kg (出身地 東京都)
出身校 武蔵野高
自己ベスト(樹立大会名) 100m自由形55秒60 (2025年国民スポーツ大会)、200m自由形1分58秒50 (2025年東京SC招待)、400m自由形4分12秒53 (2026年KOSUKE KITAJIMA CUP)

鈴木聡美
所属 ミキハウス
エントリー種目 50、100、200m平泳ぎ
生年月日 1991年1月29日(35歳)
身長・体重 169cm・62kg (出身地 福岡県)
出身校 九州産業大付属九州高、山梨学院大
自己ベスト(樹立大会名) 50m平泳ぎ30秒10 (2023年静岡招待スプリント)、100m平泳ぎ1分5秒53 (2025年国民スポーツ大会)、200m平泳ぎ2分20秒72 (2012年ロンドン五輪)

加藤心富
所属 早稲田大3年 スワンホップスイミングスクール
エントリー種目 50、100、200m平泳ぎ
生年月日 2006年1月5日(20歳)
身長・体重 163cm・53kg (出身地 埼玉県)
出身校 春日部共栄高
自己ベスト(樹立大会名) 50m平泳ぎ31秒09 (2026年3月日本選手権)、100m平泳ぎ1分6秒25 (2026年3月日本選手権)、200m平泳ぎ2分24秒24 (2025年日本選手権)

奥園心咲
所属 立命館大3年 枚方スイミングスクール
エントリー種目 100、200mバタフライ、800m自由形、400m個人メドレー
生年月日 2006年1月19日(20歳)
身長・体重 160cm・50kg (出身地 大阪府)
出身校 立命館宇治高
自己ベスト(樹立大会名) 800m自由形8分41秒22 (2026年3月日本選手権)、100mバタフライ1分0秒27 (2026年滋賀県春季室内選手権)、200mバタフライ2分9秒09 (2026年3月日本選手権)、400m個人メドレー4分42秒19 (2026年6月日本選手権)

成田実生
所属 明治大2年 スポーツクラブルネサンス
エントリー種目 200、400m個人メドレー、200m自由形、200m背泳ぎ
生年月日 2006年12月18日(19歳)
身長・体重 164cm・50kg (出身地 東京都)
出身校 淑徳巣鴨高
自己ベスト(樹立大会名) 200m自由形2分1秒41 (2022年東京SC招待)、200m背泳ぎ2分9秒54 (2025年KOSUKE KITAJIMA CUP)、200m個人メドレー2分9秒16 (2025年世界選手権)、400m個人メドレー4分33秒26 (2025年世界選手権)

水口知保
所属 東京ドームスポーツ 全日本空輸株
エントリー種目 100、200mバタフライ
生年月日 2001年8月30日(24歳)
身長・体重 161cm・55kg (出身地 神奈川県)
出身校 目黒日本大高、明治大
自己ベスト(樹立大会名) 100mバタフライ58秒53 (2024年国際大会代表選手選考会)、200mバタフライ2分7秒61 (2026年3月日本選手権)

松本信歩
所属 東京ドームスポーツ あいおいニッセイ同和損害保険株
エントリー種目 200m個人メドレー、100m自由形、100m背泳ぎ
生年月日 2002年4月3日(24歳)
身長・体重 168cm・58kg (出身地 東京都)
出身校 国立東京学芸大附属高、早稲田大
自己ベスト(樹立大会名) 100m自由形54秒95 (2024年国民スポーツ大会)、100m背泳ぎ1分1秒00 (2023年日本選手権)、200m個人メドレー2分9秒39 (2026年3月日本選手権)

小堀倭加
所属 相模原市水泳協会 あいおいニッセイ同和損害保険株
エントリー種目 400m個人メドレー、200、400m自由形
生年月日 2000年8月10日(26歳)
身長・体重 163cm・55kg (出身地 神奈川県)
出身校 湘南工科大附属高、日本大
自己ベスト(樹立大会名) 200m自由形1分58秒22 (2024年国際大会代表選手選考会)、400m自由形4分5秒57 (2021年東京五輪)、400m個人メドレー4分36秒55 (2024年国際大会代表選手選考会)

Open Water
Swimming
オープンウォーター
スイミング

南出大伸
所属 榊木下グループ
エントリー種目 男子10km
生年月日 1996年4月13日(30歳)
身長・体重 178cm・81kg (出身地 和歌山県)
出身校 和歌山県立海南高、日本体育大

辻森魁人
所属 日本大3年
エントリー種目 男子10km
生年月日 2006年2月26日(20歳)
身長・体重 170cm・61kg (出身地 兵庫県)
出身校 須磨学園高

江沢陸
所属 スポーツクラブルネサンス
エントリー種目 男子10km
生年月日 2003年10月11日(22歳)
身長・体重 182cm・75kg (出身地 千葉県)
出身校 成田高、明治大

田渕海斗
所属 尼崎SWIMMINGTEAM
エントリー種目 男子10km
生年月日 2002年7月1日(24歳)
身長・体重 171cm・69kg (出身地 神奈川県)
出身校 日本大藤沢高、明治大

蝦名愛梨
所属 ミキハウス
エントリー種目 女子10km
生年月日 2001年11月25日(24歳)
身長・体重 168cm・55kg (出身地 北海道)
出身校 帯広大谷高、日本体育大

梶本一花
所属 大林組水泳部／野尻湖游泳会
エントリー種目 女子10km
生年月日 2004年3月7日(22歳)
身長・体重 165cm・56kg (出身地 大阪府)
出身校 四條畷学園高、同志社大

■本部スタッフ

団長	村松 さやか	(公財)日本オリンピック委員会
ドクター	南條 成輝	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科

■競泳スタッフ

監督	倉澤 利彰	日本大学
ヘッドコーチ	下山 好充	新潟医療福祉大学
コーチ	海老澤雄介	スポーツクラブルネサンス
	太田 伸	枚方スイミングスクール
	金子 雅紀	イトマンスイミングスクール
	神田 忠彦	山梨学院大学
	高城 直基	慶應義塾大学
	夏間 大介	東洋大学
	平井 伯昌	東洋大学

コーディネーター/通訳	幸野 邦男	山梨学院大学
トレーナー	吉沢 剛	帝京科学大学
	杉本 啓	株サニリオス・インターナショナル
	松浦由生子	日本大学
	松井ゆかり	株Arrange
科学	林 勇樹	学校法人 追手門学院大学
	郡司 拓実	(公財)日本水泳連盟
総務	高木 琉唯	(公財)日本オリンピック委員会

■OWSスタッフ

ヘッドコーチ	太田 伸	枚方スイミングスクール
コーチ	清水 咲子	日本体育大学
	吉田 龍平	榊木下グループ
トレーナー	倉田孝太郎	APEX

ふるさと納税制度による日本水泳連盟へのご支援について

ふるさと納税制度を通じて、日本水泳連盟をご支援いただくことができます。「ふるさと新宿区わがまち応援寄附金」は、東京都新宿区内に主たる事業所がある公益的活動を行っている団体を対象に、寄附される方が応援したい公益的団体を指定して新宿区に寄附する制度で、当連盟も対象となっております。皆様からの支援金を、水泳競技の普及と発展また競技力向上のために活用させていただきたく、ぜひ皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳しくは、
こちらのQRコード
からご参照ください→

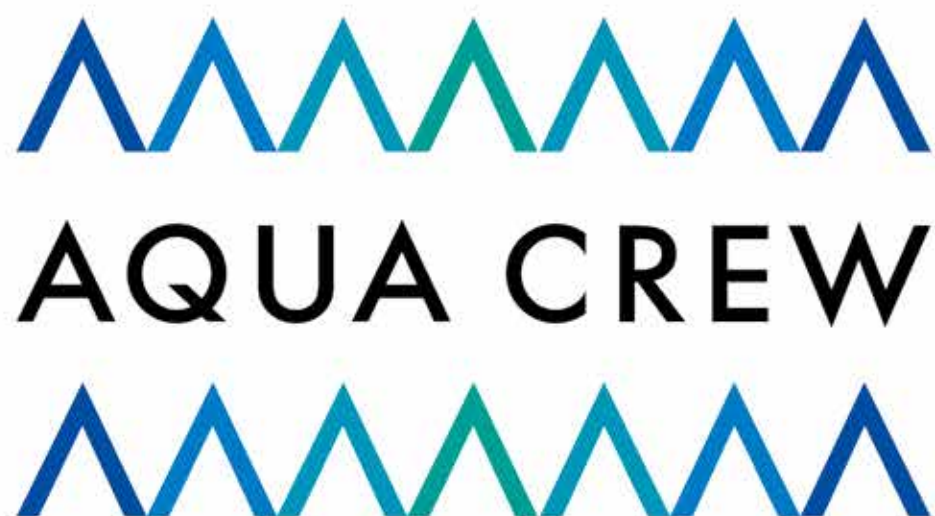


*年齢はパンパシフィック選手権競泳初日の8月12日現在 *データは7月10日現在

*年齢はパンパシフィック選手権OWS開催日の8月10日現在



水を楽しむみんなが仲間！



世界と戦うトップスイマーも、ジュニアスイマーも。彼らを応援する人も。

水中ウォークのお年寄りも、水際で遊ぶ赤ちゃんも。

プールで働く人も、海や川をキレイにしてくれる人も。

水の国・日本で水との暮らしを楽しむみんなが仲間！

AQUA CREW は、そのしるし。

こんなにも、水を楽しむ人がある。こんなにも、水を愛する人がある。

さあ、あなたも AQUA CREW になって、新たな誇りを手にしよう。